



鐵輪 宮崎精鋼株式会社

名古屋市千川区丸米町一丁目1番地 ☎052-361-2191 令和2年2月号

社長年頭挨拶

新年あけましておめでとうございます。2020年のスタートにあたり、あいさつ申し上げます。

2019年を振り返ってみると、新しい出発の多い年であったのかなと思います。5月からの新天皇による令和のスタート、鉄鋼業界では新日鐵住金殿が日本製鉄としてのスタート、また当社では新経営体制による新中期経営計画CC21のスタート、本社では食堂・講堂が完成しました。

また、2019年は天候異常の多い年であったかと思います。台風15号・19号では立て続けに関東・甲信越・東北地方の広範囲に被害が発生しました。また、日本製鉄殿・君津製鉄所では製鋼工場の煙突が強風により倒壊し12月半ばまで生産停止になるなど、生産活動に大きな影響がありました。また、8月には九州北部で線状降水帯により集中豪雨となり、観測記録を更新する大雨となりました。被災をされた方々には一日も早い復興・回復を心よりお祈り致します。また、洪水が発生した際、取引先での油の流出が報道されましたが、我々も他人事ではなく、各工場でのピット関係の密閉化・流出防止器具の設置、硫酸などの薬品・劇物の管理の徹底を進めてもらいました。また、BCP活動についても、しっかりと備えを進めていきたいと思えます。

さて、わが社の2019年の事業環境を振り返ると、米中貿易摩擦による世界各地での自動車販売台数の減速、消費税増税後の買い控え等があり、その結果、販売数量は10%程度の減少となりました。今年の環境は、引き続き不透明な状況と言わざるを得ないと思えます。国際政治面では、今月末のイギリスのEU離脱（ブレグジット）、11月のアメリカ大統領選の動向と米中貿易の覇権争い、一方国内では7月末からのオリンピックの開催に向けて消費環境は進むものの、その後の反動減も懸念される所があります。

かような状況下、2020年は、CC21（Change & Challenge to 2021）のスタート年として、しっかりと基礎固めを行い、厳しい環境にも左右されない企業体質にするの方針で取り組みたいと思えます。

1つ目は、『モノづくりの原点回帰』

2つ目は、『SDGsの実践と競争力の向上』

3つ目は、『皆さんが積極的に主体性を持って行動する』、です。

まず『モノづくりの原点回帰』では、メーカーとして【安全に、良いものを、安く】お客様に提供することは永遠の課題です。これに対して愚直に取り組んでいきたいと思えます。特に安全面においては、作業の“棚卸”をしっかりと行って標準作業の改訂、新設備でも宮崎基準で作業ができる仕組みの確立を行いたいと思えます。

次の『SDGsの実践と競争力の向上』では、持続可能な開発目標を具体的に定め、事業を通じて、環境活動のみならず、社会的にも認められる企業を目指して行きます。また、競争力の向上では、最新設備導入としてピーリングと太径伸線機の導入を予定していますが、これらをしっかりと戦力化すること、及び各部門にて、多能工化・自動化含め生産性の向上に向けた一層の取り組みをするよう、お願いします。

最後の『皆さんが積極的に主体性を持って行動する』については、文字の通りではありますが、皆さん一人ひとりが、問題意識を持って、自らが積極的に提案し、実行してもらいたいと思えます。

最後に、経済面では厳しい状況ではありますが、しっかりと計画を実行に移し、皆さんと共に良い一年にしていきたいと思えますので、宜しくお願いします。



年頭挨拶の様子

